2023年度

SD　小　論　文

3月12日(日)　人文社会科学部　(経済学科)　10：00～11：30
【後 期 日 程】

注　意　事　項

試験開始前

1　監督者の指示があるまで，問題冊子，解答用紙，下書き用紙に手を触れてはいけません。

2　監督者の指示に従って，全部の解答用紙(２枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

3　この問題冊子は，３ページあります。はじめに，問題冊子，解答用紙，下書き用紙(１枚(表裏))を確かめ，枚数の不足や，印刷の不鮮明なもの，ページの落丁・乱丁があった場合は，手をあげて監督者に申し出なさい。

4　**解答は，すべて解答用紙に記入しなさい。**(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)

5　文字数制限のある解答用紙の記入については，下記の点に留意すること。

・書き出しは，一マスあけない。
・改行したら，最初の一マスをあける。
・句読点は，それぞれ一マス使う。行の末尾については文字と同じ一マスに含める。
・小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」はそれぞれ一マスで使う。
・英数字は一マスに２文字入れてよい。

6　問題は，声を出して読んではいけません。

7　配点は，比率(%)で表示してあります。

試験終了後

8　問題冊子と下書き用紙は，必ず持ち帰りなさい。

以下の文章は，ブランコ・ミラノヴィッチ『資本主義だけ残った，世界を制するシステムの未来』(みすず書房，2021年)の一部である。この文章を読み，問1から問3に答えなさい。

福祉国家がここにきてグローバリゼーションと移民の影響に悩まされているのは自明のことだ。この問題の性質を理解するには，福祉国家の成り立ちをたどってみるといいだろう。

(中略)

社会民主主義と福祉国家とは，何も稼いでなくても消費せざるをえない時期をすべての人間が経験することに気づいた結果，生まれたものだ。これは年少者にも(児童手当)，病人にも(医療や疾病手当)，職場で怪我をした人(労働者の災害保険)，親になったばかりの人(育児休暇)，職を失った人(失業手当)，そして高齢者(年金)にも当てはまる。福祉国家はこうした給付を行うべく創設され，給付は，避けられない状況，もしくはごく普通の状況において，保険というかたちで提供される。福祉国家が基盤とするのは，想定される行動の共通性，別の言い方をすれば，文化的ならびに往々にして民族的な同質性である。1930年代のスウェーデンという同質的社会で生まれた典型的な福祉国家が，国民社会主義的(ここではこの言葉に非難の意味はない)要素を多く持っていたことも偶然ではない。

①共通の行動や経験に依拠するほか，福祉国家が持続するには大衆の参加を必要とする。社会保険は労働力のごく一部にだけ適用することはできない。それだと必然的に逆選択*につながるからだ。このことは，アメリカで医療保険制度をめぐる激論が果てしなく続いていることからもよくわかる。保険制度に加わらなくて済むなら，自分には保険が必要でないと考える誰もが(たとえば失業しそうにない金持ちや健康な人)この制度には加入しないだろう。金を払って「他者」を援助などしたくはない。「他者」だけに頼る制度が持続できないのは，高額な保険料が必要になるからだ。したがって福祉国家がちゃんと機能するのは，労働力のすべて，もしくはほとんどすべて，もしくは全国民が参加する場合に限られる。

この条件を蝕むのがグローバリゼーションなのだ。貿易がグローバル化したことで，欧米諸国の大半で中間層とその相対的な所得の減少につながった。これは所得の二極化をもたらした。つまり所得分布の両端にいる人間が増え，中央値周辺の人間が減っている。所得が二極化すると，金持ちは自分たち専用の民間システムをつくったほうが得だと気づきはじめる。ひどく貧乏で，さまざまなリスクにさらされる人びと(たとえば失業するか，何らかの病気にかかる可能性が高いなど)と一緒に集団でシステムを共有すれば，おそらく金持ちからの大規模な所得移転につながるからだ。民間システムは金持ちに高い品質(支払単位当たり)をも提供するが，それはこのシステムが，金持ちが直面しない類いのリスクについて節約できるからである。金持ちにタバコを吸ったり太り過ぎたりしている者がほとんどいないなら，彼らは喫煙者や肥満者の医療を支払うインセンティブを持たないだろう。このことは社会分離的なシステムにつながり，それは民間の医療プランや私立教育，個人年金の重要性が増していることにもあらわれている。こうした民間システムがいったん生まれると，金持ちは自分たちがその恩恵をほとんど受けないせいで，高い税金をますます払いたがらなくなる。それがこんどは税収基盤の浸食につながるわけだ。要するに，きわめて不平等で二極化した社会では，広範な福祉国家を維持するのは容易なことではない。

グローバリゼーションのもうひとつの側面である経済移民は，この50年間に富裕国が直面している問題であり　（中略）　このこともまた福祉国家への支持を下げている。②経済移民の問題は，社会的規範や行動，人生経験が異なるか，あるいは異なっていると見られる人びとが社会システムに組み込まれることで発生する。たしかに自国民と移民は行動も嗜好も異なるかもしれない。とはいえ，それと似た差異は，自国生まれのさまざまな集団のあいだにも存在する。アメリカでは多数派を占める白人とアフリカ系アメリカ人とのあいだにどうやら「親近感」が欠如していることが，アメリカの福祉国家をヨーロッパの福祉国家よりも小規模なものにしてきた。同じことが現在，ヨーロッパでも起きている。移民の大規模な集団が同化されないままで，自国民は移民が福祉手当を不当な割合で受けているに違いないと考えている。ただし自国民に親近感が欠けているからといって，それが差別といえるとはかぎらない。実際に差別が原因の場合もあるが，往々にしてこうした考えの根拠には，人が他者と同じ性質の，あるいは同じ頻度で人生の出来事を経験することはめったになく，そのためこうした出来事に備えた保険に貢献したがらないことがある。アメリカでは，おそらくアフリカ系アメリカ人のほうが失業したり投獄されたりする可能性が高いので，気前のよくない失業手当や，しばしば機能を果たさない年金制度を，白人が支持することにつながった。同様に，移民が自国民より多くの子どもを持つ可能性が高いことが，ヨーロッパでの児童手当の切り詰めにつながるかもしれない。いずれにしても，予想される人生の経験が違っていることが，持続可能な福祉国家に不可欠な同質性を蝕んでいる。

そのうえグローバリゼーション時代には，高度に発達した福祉国家ほど，スキルが低いか野心の低い移民を惹きつけるといった厄介な影響を被りかねない。移民がどこに移住するかの判断は，ほかのもろもろのことが同じなら，国と国との予想される所得の違いに左右されるだろう。理屈から言えば，おそらく金持ち国に移住するほうが好まれる。とはいえ，自分が受け入れ国の所得分布のどこに入れそうか移民がどう考えているかも見逃せない。ひょっとしたらスキルや野心が欠けているせいで自分が所得分布の下位層に入ると予想すれば，より福祉が充実して平等なほうの国が魅力的に見えるだろう。だが自分は受け入れ国の所得分布の最上位に入れる見込みがあると思ったら，反対の計算をするだろう。したがって，より発達した福祉国家を選ぶ移民のあいだで逆選択が起きるのだ。

（中略）

楽天的，あるいは高いスキルを持つ移民にとっては不平等に利点があり，より貧しい国でも，その国がより不平等である場合はすすんで移りたいと思うかもしれない。このような移民は，たとえばコロンビアのほうが貧しくても，スウェーデンよりコロンビアに行くことを選ぶかもしれない。受け入れ国の分布の高みにのぼれると期待できるために，彼らは国の平均所得よりも不平等のほうを重視するだろう。先に述べたように，受け入れ国の分布内で低位置に来ると自ら予想する，悲観的もしくはスキルの低い移民には，その逆が当てはまる。彼らは平等なほうの国を選ぶ傾向にあるだろう。したがって社会的なセイフティネットが発達した国ほど，悲観的な移民が入ってくるといった逆選択が起きるかもしれない。悲観的な移民が実際に野心も低かったりスキルも低かったりした場合，広範な社会福祉制度を持つ富裕国は，「まっとうでない」類いの移民をおそらく惹きつけやすくなる。

（中略）

最悪の問題に直面することが予想されるのは，福祉制度が発達し，所得移動性の低い国においてだろう。こうした国に向かう移民は，自分の子どもが所得の階段をのぼっていくことなど期待できない。破滅的なフィードバック・ループによって，こうした国は最もスキルが低いか，最も野心の低い移民を引きよせ，彼らがいったん底辺層を築くと，その子どもの上位への移動はおそらく限られたものになる。このようなシステムは自己実現的な予言のように働く。つまり同化できずスキルのない移民をかつてないほど引きよせるのだ。自国民はともすればこのような移民を，スキルも野心も欠けており（前述のとおり，これは本当かもしれない），そのため「自分たちとは違う存在」とみなすようになるだろう。一方，社会で同等の構成員として受け入れられないことは，移民からしてみれば，自国民が偏見から移民を嫌っているか，あるいはもっと始末の悪いことに，宗教的ないし民族的な差別の証拠に見えるだろう。

かくて福祉大国は二種類の逆選択にさらされ，それらはたがいを強化し合っている。国内では，貧乏人と金持ちの二極化が民間による社会サービスの提供を促し，政府の提供するサービスからの金持ちの撤退を招いている。そうなると，保険料が手の届かないほど高くなりかねない人だけがこのシステムに残り，彼らの多くもこのシステムから揃って抜け出しかねない。また国際的には，スキルの低い移民を呼び込むことで逆選択が働き，それが自国民の離脱を招いている。

グローバリゼーション時代に先進福祉国家が直面するこの悪循環には，簡単な解決策は存在しない。

出典：ブランコ・ミラノヴィッチ著『資本主義だけ残った，世界を制するシステムの未来』（西川美樹訳）（みすず書房，2021年），59～64頁。ただし，出題にあたって，縦書きを横書きにし，原文にあった小見出しを省いた。

＊逆選択：情報の不完全性のため，優良な財，サービスではなく，より劣悪なものが取引されてしまう事。

問 1　下線①に関して，何故，福祉国家が持続するには大衆の参加を必要とするのか，200字以内で説明しなさい。（20％）

問 2　下線②に関して，経済移民が福祉国家への支持を引き下げる理由について，300字以内で説明しなさい。（30％）

問 3　2021年時点，日本の外国人雇用者数は172万人に達してきており，今後も増加が見込まれている#。この様な現状に鑑み，本文を参考にしながら，移民労働力と福祉国家の在り方について，あなた自身の考え方を，500字以内で述べなさい。（50％）

#：データは，厚生労働省『「外国人雇用状況」の届出状況まとめ』2022年1月より

（様式８）

採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	小論文（後期日程試験：令和５年度）	問題番号	SD
対象学部・学科(課程)等	人文社会科学部（経済学科）		
出題のねらい	問１　問題文の内容を理解し，それを過不足なくコンパクトに要約する力を有しているか評価するための問題である。 問２　論理的思考力および思考の結果を整理する力を有しているかを評価するための出題である。 問３　広く社会的な関心を有し，自らの思考を論理的に展開し，表現できる能力を評価するための出題である。		
採点基準	問１　配点20% ①問題文における筆者の主張をきちんと理解しているか。 ②福祉国家の普遍的な必要性とそれを支える要因を理解出来ているか，を確認，評価する。 問２　配点30% ①本文の内容を踏まえているか。 ②複数の因果関係を，論理的に述べているか。 問３　配点50% ①本文の内容と日本の現状を踏まえているか。 ②自分の考えについて，論理的に述べているか。 ③文章が十分な長さで書けているか。		